

No. 54

2003

2月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
大屋敷 清利
印刷
下市田・キタバヤシ印刷



頌春

本年もよろしくお願ひします

陽だまりに花開く福寿草

新しい年の初めの……と万葉の祝い歌を思いつつ、元日紙上の墨書「萬祥」を見る。――多くのめでたいことの意――

今年の干支は未。未は未来に通じ、羊は古代から人と共存し、美の象徴としても敬愛されてきた。大きな立派な羊を文字形成して「美」と表示してもいる。

吉祥、飛翔、萬祥と、めでたい時の代名詞にも言い継がれてきた事からも、今年は諍いを鎮め、吉事山積する良い年にと願わずにはいられない。

初物を尊び神仏に供え、人に分けて喜び合う風習は日本人特性のようで、初日の出、初詣、初参り等元日は「初」が飛び交い、そして初便りが舞い込む。

年に一度の書面の中に、市田柿賞味札賛の礼状を何通か目にする。今年から新しい仕立て方法が導入されて一段と旨味も上昇したとのこと、地域産業振興に寄せる有難い評価が嬉しい。

今春、公民館活動二年目の区切りを迎える。各地区から寄せられたお力添えに感謝申し上げ、共に結ばれた絆を糧として、新しい気持ちで次年度へ繋いでいきたい。

区の情勢について

区長 大屋敷清利

新春を迎え区民各位のご健勝を祈念致します。

二十一世紀を迎えたばかりの頃の何となく抱いた期待感も萎むばかりの昨今ではあるが、昨年はノーベル賞のW受賞、高森町では「あさぎりの郷」開業、「蘭ミュージアム高森」の開園、有放の改修など期待を持たせるものがあつたことはうれしい。

いよいよ年度末を迎える。二年間の任期でご苦労いただいた区内の諸役の交代の時期である。みんなで背負って進んでいく下市田区であってほしいと願っている。

十二月から全世帯燃やすゴミ収集に伴い、下市田区内にもステーションが七十箇所設置された。設置にあつた場所の選定、グループ作り、常会加入未加入、管理や運営上の問題等を克服し、常会や部落の枠を超えて設置したところもあり、町民参加の町作りの実践の場でもあった感がある。とかく人任せになりがちであるが、各自が責任を持って愛護育成してほしいものである。

道路関係では、ふるさと農道県営湯が洞線は、林豊氏宅南から竜西線まで、三月までの工期で工事が始まっている。

朝霧の里整備事業の中で行われた唐沢線の拡幅工事の仕上げとして、舗装が三月十日までの工期で行われる。

五区会所北の坪井線は、町単道路改良工事として西半分は完成し、その続きから夕映え道路方面へ工期三月二十日です工事中である。

下市田駅前線は、町単道路改良工事として竣工三月二十日というところで工事が行われる。

農免道路は、北工区堤防下から南へ二〇メートル工期三月十四日です工事が始まる。

下水道関係の工事も着々と進行している。国道地下歩道周辺、区民会館南二箇所、羽根線方面の計四箇所の入札が年末に行われ三月末を工期として行われる。

萩山神社の春の祭典は、三月二十九・三十日に行われる。伝統の獅子舞・囃子屋台の芸能発表会も例年通り準備に入るよう進められている。特に本年は、新調した囃子屋台のお披露目に

もなる。今年の獅子曳きは、一・二・四区の担当である。又、昨年新しい試みとして始めた獅子曳きのわらじ作り講習会を開き、自前で作ったわらじを後継者の育成もしていくよう計画されている。今年の春祭りも伝統を守り盛大にできることを願っている。

委員会活動報告

消防委員長

中村敏彦

区民の皆様、新年明けましておめでとうございます。日頃消防活動につきましてご理解ご協力を頂き、ありがとうございます。

さて、消防委員の任務は各区の消火栓・格納庫・ホースの更新・新調、又中小河川の実態調査等であります。平成十四年度は六月十八



放水訓練

日に消火栓及び格納庫の点検、ホースの更新・修理、格納庫の更新等について区三役・消防委員で話し合いました。又六月二十三日に中小河川・新井堤・間ヶ沢堤・牧ノ内堤・新堤・ひょうたん堤・新井井・長詞ヶ洞・順礼沢の見回りを行い、今回南大島川・大島川各河川共に土砂・ゴミ・竹・草等が多く、取り除いておきました。

又区民の皆様には防災訓練には多数ご参加頂きありがとうございました。尚、十月二十七日には、区民会館駐車場に於て放水訓練を行い、区三役・議員・消防委員・自営消防等多数参加して頂きました。

又各家庭においても、非常持ち出し袋の点検等も時々行って頂き、災害の場合の心掛けを忘れず、火災予防にも気を配って頂くよう、お願いします。

氏子総代の紹介と一言

総代長 上沼政夫

区民氏子の皆様、新年あけまして御目出とうございます。

昨年十二月に神社の氏子総代の改選があり、次の方

萩山郷土芸能保存会 十五年度 新組織体制

幹事長 近藤斌彦

昨年十二月改選となった萩山郷土芸能保存会が、幹事会を中心にスタートしました。伝統ある春の祭典を皆さんの協力を得て成功させたいと思いますので、宜しくお願いします。

会 長 大屋敷清利
副会長 湯沢操一
相談役 小宮山佳子
会 計 近藤斌彦
幹事 龍口平八
幹事 松村修平

◎幹事会
幹事長 近藤斌彦
幹事 湯沢操一
幹事 小宮山佳子
幹事 近藤斌彦
幹事 龍口平八
幹事 松村修平

が選任され、一区木下三治二区宮澤務、三区上沼政夫、四区池田達夫、五区小川勝司、六区市岡治男の各氏が平成十五年・十六年の二年間萩山神社の祭祀に奉仕する事になりました。

もとより未熟者の私たちが、その器ではありませんが、お引受け致しました。お受けした以上先輩の皆様にも負けることなく一生懸命に務める覚悟でございます。氏子皆様方の御支援御協力をお願い致す次第でございます。

一年間には神社の祭典は大小合わせ十二回位あり、その都度氏子皆様、特に当番会長さんの方々に深い御理解と御協力をいただき御奉仕をお願いし厳粛にして賑やかに祭典が出来ます事を願うわけでございます。

いつも萩山神社の御加護を頂き、この下市田萩山の里が平穏で益々栄える事を皆様と共に願うわけでございます。

副幹事長 木村勉
副会長 酒井紀男
副会長 今利利雄
備品幹事 林鉄夫
副備品幹事 壬生睦男
幹事 鹽美奈人
幹事 塩沢章好
幹事 上沼洋一
幹事 大久保隆弘
幹事 林光美
幹事 大島博之
幹事 寺沢正勝
幹事 上沼豊美
幹事 原文夫
幹事 田中利夫
幹事 有賀重信
幹事 三浦喜久夫
幹事 三浦伊佐夫
幹事 木村勉
幹事 塩沢章好

第22回たかもりふるさと祭り

11月16日・17日

盛り沢山の催し物で開催される



あったか汁粉で大盛況 コミュニティテント村

下市田区出店

去る、十四年十一月十六日・十七日「第二十二回たかもりふるさと祭り」が中学校グラウンド、役場周辺等を会場に開催され、晴天に恵まれ多くの人出で賑わった。

盛り沢山の催し物の中で

此の「テント村」は、町のコミュニティ推進委員会が中心となって、各々の区

からの出店によって形成されるもので、下市田区でも例年にならって「おしるこ店」で参加した。

出店に携わったのは、副区長・コミ推進委員・支館三役・各分館長・各分館主事・各区女性ふるさと正副支部長による三十名弱のメンバーで、一部を除いては、当番制で取り組んだ。

男性女性を問わず、揃いの赤いエプロンとバンダナ姿は、自ずとやる気と連携を生み、それぞれの受け持ちの場での活躍ぶりは、テント内を生き活きさせるものとなった。

鮎を練る人、大鍋をかき混ぜる人、餅を焼く人、器に盛る人、客の応対、呼び込み等々、各々の場で「下市田」の看板の元、作業をこなしていく。

立ちのぼる湯気、甘い匂い、焼ける餅の香ばしさが交錯するテント内で、笑い声がはじける。

二日間に二千食をとの予定で、半日分ずつを計画的に割り振って進めてはみたものの、どうしても早目に出来てしまい、お断りするはめにもなってしまう。何と言っても、無料サービスのおしるこは大人気で、中

には再度訪れる方も見受けられた。

「あたたかくて美味しいな」とか、「甘さ加減が丁度いいに」とか、「あれ、〇〇のおじさんもお作りのの」などの声援を受けて、長時間の立ち仕事の疲れも忘れて、みんな頑張っていました。

「テント村」は「地域の自慢とふれ合いの場」としての位置づけがあり、初対面の人も、顔なじみと同じように、言葉を交わし合って交流の場となっていた。一方、テント内の仲間意識の深まりと共に、軒を並べた出店地区相互とも連帯感が生まれ、まさにコミュニティ事業としての成果は大きいものがあつた。

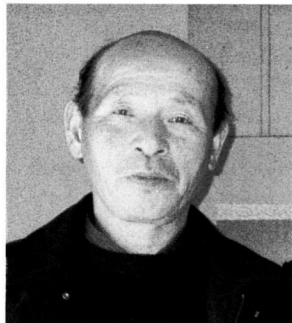


新刊図書紹介

今年も新規図書を三十六冊購入致しました。区民会館の図書の存在や借用方法が、理解されてきたためか、この一年の延べ貸出図書数は百九十五冊にのぼり、前年の約二倍という冊数でした。今年も、読みたい本・読ませたい本を揃えましたので、是非ご来館下さい。それでは、主な購入図書を紹介します。

物理屋になりたかったんだよ・プロジェクトX・田中康夫研究・半落ち・なぜあの人はリーダーシップがあるのか・標的走路・釈迦・拉致の海流・輝ける子・アルジャーノンに花束を・ハリポッターと炎のゴブレット・情けの力・天国の本屋・青空のむこう 他





文化祭り・敬老祭では、限られた会場での文化祭りは、日頃の区民の方々の文化に対しての思いが見る

一つは萩の里祭りです。この祭りは始めから区民全体で行う祭りとしての位置づけから、多くの人が集まる事が出来る素晴らしい祭りです。祭りの後の片付けも良く、翌朝の区民広場はすがすがしく感じる程でした。尚、出来れば若い人達のバンドの演奏に今少し時間を取る事が出来ればと思います。

代議員会会長

湯 沢 操 一

公民館事業は支館と分館で行う行事ですが、各分館で行う事業は多岐に亘りますので、ここでは支館として行われた大きな二つの事業に絞らしてもらいます。

人形座の方々に大変な感謝であります。今後の祭りにも区民皆で楽しめるような伝統芸能を取り入れる事が出来ればと強く思います。又演目の合間に行われた解説など大変楽しく有意義なもので、もつと大勢の区民が見られる様な工夫も大事かと思

文化祭りに併せて行われたぐりウォーキングも区内の史跡などを知り、上で大変良い企画でした。今後の公民館の事業も何か一つプラスする事も大切な事だと思います。

本年度公民館活動を ふりかえって

町のスポーツ大会、スローピッチソフトボール・ソフトバレーボールの試合が開

分館長会長 仲 平 伸

催され熱競にて終わる。又支館では萩の里祭りが区民の皆様の熱気あふれる中、盛大にて閉じる。

盆野球大会、地域の運動会、区文化祭り・敬老会、今回初の試み今田人形浄瑠璃が導入され大変好評でした。

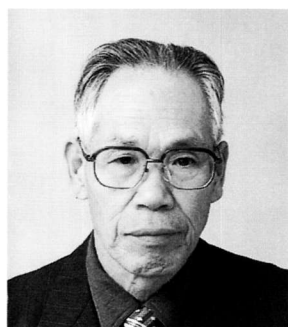
町のみんなで歩こう秋のたかもりを実施。公民館文化祭りが、今年度は想像してごらんのスローガンを掲げられて町内各文化グループの展示や発表会が行われ、ふるさと祭りコミュニティ村地域の出店が有意義に過ごされた事と思います。

一年を振り返って見ますと色々な足跡があります。一つ一つの行事が皆の行動に現われ、楽しく、元気で活発に出来た事を嬉しく思います。大勢の人のふれあい対話、対応を大切に協力し頑張ります。

支 館 部 長

滝 沢 昭 彦

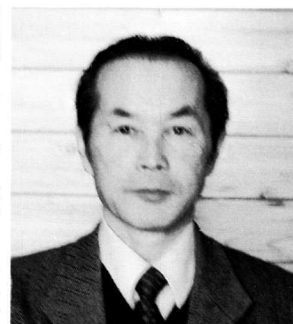
任期二年間の支館活動は、我々部員にとつて、四部五十人規模の組織から一部二十人規模の組織に変更した最初の年であり、誰にも頼れない手探りの部員活動でした。



支館長を除いた他の者は支館の事業経験が無く、当初は不安でしたが、先輩方の助言も頂きながら進めていくうちに、開き直りにも似た覚悟が出来たように思います。支館の事業は、「図書」を除けば「町議との懇談会」「萩の里祭り」「文化祭り・敬老会」「区報館報編集」の四分野となります。「全事業を全部員でやるんだ」という体制で臨みましたが、各事業に、区を始め各方面の方々に御助力を頂きました。特に分館の方々に大きな力添えを頂きました。本当に有り難う御座いました。それぞれの事業にそれぞれの立場で全力で取り組み、思い出や反省すべき事も出来ました。一年目の「萩の里祭り」では、電源や舞台作りの安全性が

問題となり、二年目には対策を考え改善しました。二年目の「文化祭り・敬老会」の文楽は大成功でしたが、新しい企画を入れることの難しさも知りました。一年目の反省をふまえ、二年目はより完成した形を目指しましたが、やはり、二年目には二年目なりの反省が生まれました。今後新しい支館の方々と研究していつてもえればと思います。二年目では、部員達にも余裕が出てきて、物事はスムーズに進みましたが、少数部員で上記事業をこなしていくのは、一人当たりの責任が増えることになり、机上の計算だけでは計れないものがあります。今までの部員のご苦労以上のそんな負担を、新部員達は耐えてきました。

例えば、優秀で素晴らしい部員に支えられて今日を迎えた部長でした。感謝の気持ちで一杯です。



公民館によせて

高寿会

小林 恵

思い起こせば月日の経つのは早いもので、公民館の皆さんの御骨折りで昭和五十九年一月下市田区報第一号が発刊になり、平成七年九月一日付で区報・館報となり、今回で五十四号と続きました。

平成十年には町公民館の組織改編に伴い支館と分館となり、事業も大幅に増加し、館長さん始め役員や係の皆様大変御苦労のことと推察し、心から深く感謝致しております。

また公民館の仕事は多岐に亘り広い事業であり、私等高齢者が深く期待している事業では、萩の里祭りや文化祭り・敬老祭がありま

で賑やかに始まり、特別今年は今田人形の公演が、長時間舞台狭しと熱演され感動しました。毎年新しい企画を取り入れたり、前年を参考にして再三打合せを行い、資料収集して実施計画をまとめる心遣いは、本当に大変な事と推察致します。

萩の里祭りは夜の祭りで野天で行いますので、天候に配慮したり、舞台作り等大事業であり、遂行される皆様に敬服致します。

高齢者もこうした催しには年毎に参加者が増加し、久し振りに会えて話もはずみ、主催者に感謝しながら帰路に着きました。

公民館活動は、年間を通して区民会館を拠点として数多く展開されています。使い勝手の良い区民会館が活動の大小を問わず利用されている事は、予定の掲示板を見れば一目瞭然で、自分以外のグループ活動が判るので区民としての連帯感を持つ事が出来ます。

コミュニティ事業の萩の里

日赤奉仕団

北島直江

公民館活動は、年間を通して区民会館を拠点として数多く展開されています。使い勝手の良い区民会館が活動の大小を問わず利用されている事は、予定の掲示板を見れば一目瞭然で、自分以外のグループ活動が判るので区民としての連帯感を持つ事が出来ます。

コミュニティ事業の萩の里

祭りは自主的な活動の雰囲気です。私達（下市田婦人の会・出砂原女性ふるさとの会・日赤奉仕団）の役割分担は接待でしたが、高年齢者にも関わらず漬物作り、盛り付け、会場への運搬、接待、片付けまで女性部員の見事な準備と仕事振りにリードされて経験に勝る若い女性部員の知恵と活動に感激しました。

この他萩山神社春祭りに夕祭本祭に米一俵余の炊き出し、屋台の幌の補綴、曳き布のアイロン掛け等、準備の手伝いもさせて頂いていました。

が、炊き出しおにぎりの四五〇食分は日赤奉仕団本来の使命に基づく働き方で、貴重な勉強と訓練になった事を感謝しています。

又、座布団カバー二五〇枚余の洗濯、障子張りなど出来る事をしました。

残念ながら、女性団体は数少なく高齢化しています。活動状況の過渡期でしょうか。男女共同参画型社会実現の今こそ理解ある世代交代が出来て、何時の時代にも大切な社会奉仕と自らの向上の為に女性団体・日赤奉仕団充実の為に、団員加入の御協力を切にお願いいたします。

公民館活動は、年間を通して区民会館を拠点として数多く展開されています。使い勝手の良い区民会館が活動の大小を問わず利用されている事は、予定の掲示板を見れば一目瞭然で、自分以外のグループ活動が判るので区民としての連帯感を持つ事が出来ます。

完成屋台子囃子の願念

近藤 斌彦 萩山郷土芸能保存会幹事長

萩山神社の春祭りは、獅子舞と囃子屋台が祭典を盛り上げます。「高森町民俗芸能誌」によると、獅子舞・獅子曳きはおよそ二百年ほど前から舞われるようになり、囃子屋台「嬌春台」はそれから三十年ほど後に建造され、祭りが一段と賑やかになったと書かれています。

また同誌によると、従来の囃子屋台はいつ頃造られたか定かでないが、正面が、正

面六尺、側面九尺の総檜造りで、正面と側面の腰板は櫓の厚板が使われており、屋台の周囲は三尺幅の竹製のすだれと提灯で飾られ優雅な趣を添えていると記されています。

この歴史ある囃子屋台は永年の使用に耐えきれず、これまでにも何回かの修繕を繰り返してきましたが、平成十三年の祭典では、車輪が欠損してしま

まい、翌平成十四年の祭典には応急処置を施した状態で祭典に臨みました。

保存会では何時かは致命的な傷みが生ずるという判断から、高森町にコミュニティ助成金の申請を行い、早期の造り替えを計画してきました。

申請は予想外に早く取り上げられ平成十四年度助成を受けられることになりました。

春祭りが終わった平成十四年五月、保存会内に囃子屋台製作委員会を設置しました。これまで慣れ親しんだ屋台を造り替えることから、保存会員（区民）の理解と協力が必要であるとの考えに立ち、代議員会を通じて製作に至った経過の説明をし、意見を聞いた上で製作の検討に入りました。



歴史ある囃子屋台を新調するにあたっては、現在の屋台を正確に復元すること、これまで使い継がれてきた看板など使える部品は後世に伝えてゆくことを基本とし製作に取り掛かり、過ぐる十一月末に完成を迎え翌十二月一日に萩山神社境内において完成披露と入魂式をすることができました。

この新しい囃子屋台は、平成十五年三月の春祭りに晴れてその新しい姿を皆さんにお見せすることになります。保存会の新しい歴史のページを刻むにふさわしい賑やかな祭典となるよう準備を進めています。

どうか春祭り当日には多くの会員の皆さんにお越しいただき、囃子屋台お披露目のお祭りを御覧いただきますようお願いします。

下市田のみなさん

こんにちは

一区出身 寺沢昌治
(東京都八王子市在住)

下市田区の皆さん、長寿
県、特に男は沖繩を抜き第
一位お祝い申し上げます。
これからも元気で、健康な
寿命を保って頂きたいもの
です。

今回区報「萩の郷」の原
稿依頼を委員の北沢安子さ
んから連絡を頂き、お受け
致しました。当初は十月十
五日で締切りとのこととし
たが、生憎その頃は日本を
離れ、米国シアトルに義弟
の娘の結婚式で出席旅行中
であり、原稿が役立たずで
あり、深くお詫び申し上げ
ます。

現在私は八王子市に妻と
娘の三人暮らしで居ります。



六十八歳まで
現役で会社勤
めをしました
が、二〇〇三
年は古希(七
十歳)を迎え

る年齢となりました。

早いもので昭和二十七年
に飯田高校を卒業して、故
郷市田を離れ、大学受験を
試みて上京しました。高校
卒業後昨年の十月十八日飯

田高校卒業五十周年記念行
事の連絡がありました。残
念ではありましたが、旅行
中で欠席となりました。

戦後五十七年中大半の五
十年を色々経験と積み生
き抜いて来たわけですが、
全力投球で精一杯の生活を
やり遂げることが出来たこ
とは、本当に夢の様であり、
ご協力者に対して感謝の念
で一杯です。

私も何度か大学受験は失

敗し、浪人生活を経験した
者ですが、目的通り進むこ
とが出来、卒業と同時に大
手百貨店「三越」にお世話
になりました。「農家の息
子が商人になるのか」とよ
く言われました。農業は土
を祈り申し上げます。

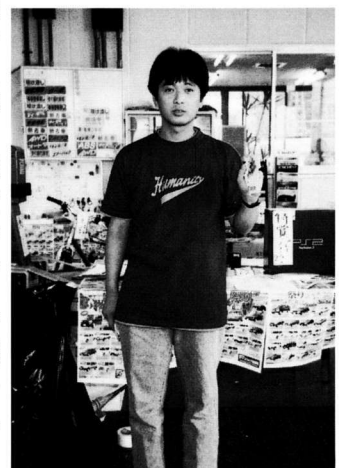
地球について考える

四区 田切和孝

今、地球があぶない。人
間が、生きている地球。そ
の人間が、地
球をおいこん
でいる。

最近のニュー
スの中でもよ
い情報はない。
二年程前の、

次に環境問題
地球温暖化現象
やはりここ数年
前より、大きな
問題になってい
る。昔、雪がよ
く積もったもの
だが、その雪も
あまり積もるこ
とはない。今も寒い日は、
何日かはあがるが、春の訪れ
も早い。夏も年々最高気温
が上がりがつつある。去年、
日本の中では、最高気温四
十度を記録している。この
ままでは、人間が住めない。
生きていけない地球になっ
てしまう。そうならないよ
うにする為に十二月より、
一般のゴミは、燃やしては
いけなくなった。資源ゴミ、



埋め立てゴミ、燃えるゴミ
などの区別。ほとんどの人
は、めんどくさいと思っ
ているだろう。しかし、こ
ういった事が、地球温暖化を
防いでいる。一步一步の積
み重ねということになる。
一人一人が、意識をもって
やっていかなければいけな
いのである。
地球を守っていかなくれ
ばいけない。

随想

無題

五区 T・T

十二月二十四日、夜のテ
レビジョン放映で、平谷村
の中学生が、村政に参画す
る、とありました。長野県
知事に始まり、泰阜村村長
の様に、行政への姿勢は、
いわゆる、町・村民の立場
に立った、まさしく誠意の
行政だ。実に立派だ。他の
町村も、是非、ぜひ、見習

これからは、私達一人一
人が、もっと真剣に行政を
見届けて行かないと、益々
酷い生活を強いられること
になる。其の為に大切な事
は、町民の悲痛な叫びが、
議会に、行政に届く様、努
力しなくてはならないけれ
ど、其の方法は、皆で考え
て行けば、きっと良き案が
生まれると思う。人の上に
立つ者は、人の言う事を良
く聞ける人だ、と、書かれ
ていたが、全く其の通り。



マラソン大会

小二 てらさわ ゆうき (一区)

十一月十四日に校内マラソン大会がありました。きょねん一年生だったぼくは、一位になりました。

だから二年生になったとしても一位になりたいとおもいました。二しゅうかん

ぐらいまえから、学校へはうていでなんしゅうはしれるのか？ などのれんしゅうをしました。たんにんの

さすが先生がもだちと足がつつまじゅんいがさがつたらでころびました。でもすぐたちあがってはしりました。グラ

ランドをはしっているときは二位だったけど、グラランドを出るときは、一人ぬいて一位になりました。ぼくは、このまま一位になれるかな、とおもってがんばってはしりました。そしてそのまま



右がゆうきくん

僕の夢

中一 和田拓磨 (三区)

僕の夢は、消防士になることです。なぜこの職業にしようと思ったか。理由は二つあります。

一つ目は、人を助ける職業をやってみたいからです。

これまで大雨でダムの水があふれて、川でキャンプをしていた人たちがながされてしまう事件や、火事で、火が燃え上がってけむりで死んでしまう事件がしばしばありました。だから僕は、そういう人たちを助ける仕

事の一つ、消防士になり

たいと思いま

した。二つ目

だと思っただけです。

そしてもう一つ、なりたい仕事があるんです。それはカウンセラーの医者です。

なぜなら、僕のかと云うと、僕のすごく仲のいい友達

が、いま不登校だからです。だからその

友達とか、いろいろな人のカウンセラー

をしてあげて、僕の力で少しでも多くの



人が、学校に行けるようになって欲しいのです。

僕は、この二つの夢のどちらかを、実現するために、勉強です。勉強をがんばって、自分の行きたい高校に行き、自分の夢を、実現したいと思っています。

僕は、この二つの夢のど

ちらかを、実現するために、勉強です。勉強をがんばって、自分の行きたい高校に行き、自分の夢を、実現したいと思っています。

僕は、この二つの夢のど

ちらかを、実現するために、勉強です。勉強をがんばって、自分の行きたい高校に行き、自分の夢を、実現したいと思っています。

僕は、この二つの夢のど

ちらかを、実現するために、勉強です。勉強をがんばって、自分の行きたい高校に行き、自分の夢を、実現したいと思っています。

僕は、この二つの夢のど

編集委員研修旅行
知多半島の旅

下市田支館編集委員は、去る十一月二十四日愛知県知多半島への研修旅行に行ってきた。幸い好天に恵まれ、一同初冬の楽しい一時を過ごすことが出来たのではないかと思います。

今年は冬場を避ける意味で、この時季を選び計画した。多数の参加を頂き、普段、ともするとお互い疎遠になりがちなこの世相に於て、心を一つに今迄支館事業に真剣に取り組んで来た仲間と、この様な親睦を含めた研修旅行が出来た事を有難く、又、深く感謝致します。

バス道中に於ては紅葉を背に、又、海岸近くには雄大な海に浮かぶ輸送船や漁船、そしてサーフィンに興じる若者達。バスは一路野間大坊へと。そして支館の益々の発展と、そして委員各々、家内安全、健康等々厄除祈願して参りました。知多・師崎にて新鮮な活魚料理を舌つづみ。皆心身共にリフレッシュ出来たのではないかと思います。又、

えびせんの里、豊浜さかな市場では友人、知人へのお土産を両手いっぱい抱え込む人々。

下市田支館の役員として残りわずかの任期となりましたが、振り返れば萩の里祭り・敬老会・文化祭等々に於て多くの区民の皆様と接する機会、コミュニケーションを持たれた事などを考えると、一面楽しい思い出となる事かと思えます。支館の活動如何によって、下市田、いや高森町が温もりのある人に優しい町作りが出来るにかかっていると言っても過言ではないと思います。各位に於かれてはあらゆるシュチュエーションにも負けず、一層頑張っ

田中幸蔵記



地域の紹介

四区漸進会

池田直人

神社前から再スタート。

「地域の紹介」のページをお借りして下市田四区漸進会(「ゼンシンかい」と読みます)について紹介させていただきます。

四区に居住する青壮年層で組織する漸進会は、一時期活動を休止していましたが、地域の中から活動の再開を望む声が高まり、活動を再開しました。

元旦マラソンが先日開催されましたので、その様子について紹介します。

今年で十二回目を数える漸進会主催の元旦マラソンが、一月一日の午前中、生活改善センターを発着点とする約三キロのコースで行われました。

当日は風も無く厳しい寒さからも開放された穏やかな新春の日差しの中、地元四区の方はもちろん、町内からも多くの参加をいただき、午前九時三十分生活センター前を一齐にスタート。萩山神社までの約一キロは足慣らし。神社では参加者全員で初詣の参拝を行い、



グループ紹介

エンジェルパッション

一区 牧野知子

早に済ませ日頃の運動不足

私たちは、体を動かす事が大好き、という

元氣ハッラツ・パワー全開の仲間たちが集まって出来たエアロビクスのグループです。

平成十二年九月に発足し毎週水曜日の午前十時から十二時頃まで、下市田区民会館の大ホールで、軽快な音楽のもと、気持ち良い汗を流しています。

インストラクターの先生は松川町にお住まいの伊東いづみ先生で、小学生二人のお子さんを持つ元氣いっぱいママさんです。以前保育士をされていた事もあり、私たちのやる気を上手に引き出してくれる先生です。

このグループは全員が子育てで真最中で、ほとんどが未就園児の子供を持つ仲間です。毎週水曜日の朝となると子供たちを送り出し、家事を手



年末大掃除

日14年12月

五区分館長

伊奈川 和彦

十二月一日、日数的にはやや早いかと思いましたが恒例になっております、公民館関係者による区民会館の年末大掃除が行われました。当日は町のコミュニティの研究集会もあり参加した為、予定より少し遅れた中で、支館長さんの挨拶後、それぞれが担当の場に分かれての作業となりました。ほこりとクモの巣が相当なものの中、予定より早めの終了となり、会館は一早い新年を迎える準備は出来ました。

「俺は年末になっても家た。ではこんなに掃除をしない」とか、「カアちゃんに言われる前にしてしまおう」とか言いながら、見違えるほどになりました。

作業後、今年度の支館・分館の事業報告と、支館の事業の在り方について協議しました。十三年度から組織の改革により、分館長・主事も一員として参加している中で、これ以上の事業は無理ではないかとの意見もあり、実際、公民館・支館・分館の事業を消化し、町と関係部落の役員として務める中で誰もが実感として多いのではないかと受け止め方をしているのではと思います。

来年も区民の皆様の活動の拠点となる区民会館の大掃除は、終了となりました。

編集後記

内外の社会情勢に、さまざまな不安を覚える中で、新年を迎えました。

せめて身近かな区報「萩の郷」くらいは、安らぎのある紙面をお届けしたいものと願うものです。

此の編集に携わって来た委員会にとって、本号が任期最終の発行になります。十三年度から六回の区報を手がけて参りました。その間の区民皆様のご協力、誠に有難うございました。

地域の文化継承、区民の連携等のため、区報が活躍する事を祈念致します。